

スピリチュアル物語

194話 by 魔女ともえ

この『スピリチュアル物語』は、BRIDGE USAさんよりお引越しました

魔女ともえ

ミステリースクールよりイニシエーションを受けた全米初の日本人魔女。チャネリング、白魔術、過去世リーディング、オーラ診断、浄化などを通じて、人々の幸せをサポート。ヘリと小型機のパイロット免許を持つユニーク魔女。

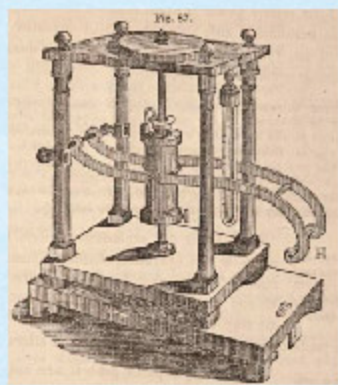
- Skypeセッション 1時間\$80 / 90分\$115
- メール相談 簡易コース\$15 / 通常コース\$40



「エジソンの母ナンシーは：次々湧き上がるエジソンの疑問を一切否定せず、実際に実験出来る事柄と一緒にトライしたり、わからないことは調べたりして、共に学ぶというスタンスを取ったんじゃない。ガチョウの卵を温めてもヒナが孵らず皆に笑われた際も、ナンシーだけは彼を褒めた。結果よりも疑問をそのままにせずにトライしたことを褒めたんじゃない。109話でも触れたが、彼が電球を発明する迄に一万回失敗しても諦めずに続けられたのは、恐らくは失敗しても母に褒められた、という

幼児体験が活きているのではなからうか。そして：彼女は彼が幼い頃には大人向けの歴史書を読み聞かせたり、沢山の本を与えたりしたんじゃない。すると彼は9歳頃にはシェークスピアやディケンズを自ら進んで読む様になり、更に母から与えられたRichard G. Parkerの著書「Natural and Experimental Philosophy」(自然・実験哲学)という挿絵付きの本が彼の実験に対する情熱を更に掻き立て、彼は実験することを許可してくれた地下室でその本に書いてある全ての実験を自ら試したと

言われておる「マグワートの言葉に「へえ。彼は凄いい研究魂を持っていたんだね」ワイザットが感心したという表情で応えたと、「それプラス、否定されない、失敗さえも褒められるという母の深い愛により彼の才能が開花したんでしょうね」マジリアルがそうコメントした。「そうじゃな。しかし、その一方では彼が危険なことをした際には櫂の枝で叩いて厳しく叱ったそうじゃ」



LIBRARY OF CONGRESS

★これまでのお話(1~193話)は魔女ともえのwebで読むことができます。

www.majotomoe.com 9月1日号につづく